

# 令和7年度 大学出張講義の概要／受講者による協定等の評価

## 大学出張講義の概要

実施時期：令和7年12月～令和8年1月

実施大学：宮城大、京都大、関西大、青山学院大、東京大、中央大、政策研究大学院大、長崎大、島根県立大（実施順）

講師：内閣官房TPP等政府対策本部職員

講義数：12コマ（1コマは概ね90分程度）

講義では、協定の特徴や意義、自由で公正な経済秩序の構築に向けて果たす役割などについて説明した後、質疑応答やグループワークを交えて学生の方々との意見交換を実施。また、一部の大学では、若手職員による国家公務員のキャリア紹介も実施。

## 出張講義の効果測定結果（アンケートによる定量分析）

講義前後にアンケートを実施し、TPP/CPTPPに関する認知度、講義の評価および講義前後の協定に対する認識の変化を確認。

### 講義前の状況（事前アンケート）

協定の認知度		講義前は、TPP/CPTPPについて知らない・ほぼ知らない層が全体の約7割。
--------	--	--

### 講義に対する評価（事後アンケート）

満足度 (1=不満/3=普通/5=非常に満足)	4.41/5	ディスカッションを取り入れた講義では、いずれも高い傾向が見られた。 (ディスカッションを取り入れた場合の満足度平均：4.54、理解度平均：3.25)
理解度 (1=あまり理解できなかった/4=よく理解できた)	3.16/4	
難易度 (1=難しすぎる/3=ちょうどよい/5=簡単すぎる)	2.93	

### 協定に対する認識の変化（事前・事後アンケート共通）

“日本の経済成長に有益である”	3.88 → 4.18 (+0.30)	講義前後で同一項目（1=そう思わない～5=そう思う）に対する認識を質問。 協定に対する認識・評価は総じて上昇。 経済成長や経済秩序の構築に対する貢献については特に高い認識・評価を獲得。 「日本のリーダーシップ」に関する認識・評価の上昇が顕著。
“自由で公正な経済秩序の構築に寄与している”	3.77 → 4.15 (+0.38)	
“国内産業への悪影響は回避されている”	3.24 → 3.53 (+0.29)	
“我が国はリーダーシップを発揮している”	3.25 → 3.88 (+0.63)	



### 学生からのコメント (抜粋)

- TPPの存在について知らなかったもので、勉強になった。
- 日本がどこまで経済連携協定を結んでいるのか、学生のうちから関心を持つべきだと感じた。
- 実務を担当している方からのお話は貴重であり勉強になった。
- TPP/CPTPP協定で、日本のリーダーシップが発揮されることを楽しみに、これからも情報を集めようと思った。